

賢く 優しく 遅しく



志木三小だより

学校運営協議会スローガン「ともに愛そう わがまち わが学校」

志木市立志木第三小学校

令和5年2月13日

志木市柏町3丁目2番1号

TEL 048-471-1062

自分の考えを持つ～説得する・納得させる～

校長 関根 久美子

自分の考えを持つ、ということは簡単なことのように見えて、事によってはとても難しいことです。「今日の夕飯、何が食べたい？」なんて尋ねても、「なんでもいい」「おいしいもの」などと、曖昧な答えが返ってくることが多いです。そういう時に限って、「それでは、あっさりと、のど越しのいいものを」と献立を考え提供すると「おなかですいているからボリュームのあるものが食べたかった」などと言われます。「それじゃあ、最初からそう言ってくれたらいいのに」と文句の一つも出るのですが、聞かれたときには「深く考えていない」し「自分の明確な考え」が持てないのです。食事の献立は、最終的には「作ってくださる方に感謝してなんでも食べる」ですが、人生には「人任せにできない」「自分の考えを主張したい」ことがあります。日本人は、古来、自分の考えを押し通したり、強く主張することを好まず「曖昧にする」「一歩下がって謙譲の美德」「長いものに巻かよ」などの傾向があるようです。このことの背景には、諸説あると思いますが、一つには「他人の評価」をことのほか気にすることがあるように感じます。「自分がこう言ったらあの人はどう思うだろう」「この考え方は、認められないのではないか」などと考えて、自分がどんなに正しいと考えることでも、周りの出方を見て、時には「ひっこめて」しまうようです。また、時には「同調圧力」をかけられることもあります。しかし、この「他者の考え・評価」ほど「わからない」「曖昧な」ものはありません。自分が言ったことで相手がどう思うのかは、相手が声を上げて表現しなければ、永久にわかりません。私たちには他人の「心の声」を聴く力はないのです。勿論、相手がどう思うのか「おもいやる」「想像する」ことを一切せず、「なんでも言いたいことを言っているか」というとそうではありません。コミュニケーションの手段として、相手を「思いやる」「心声を聴く」ことは必要ですし、そうしなければなりません。相手を思いやらない人とのコミュニケーションは成立しないのです。

けれども、「今期の国の予算案についてどう思う」「サッカーワールドカップでの日本チームの戦い方についてどう考えるか」「この曲を聞いてどんな感想を持ったか」「この物語は、何が面白いのか」と聞かれたときに、たとえ、隣の友達が何と言おうと「自分の考え」「自分の意見や感想」をきちんと言えなければなりません。そして、その意見や考え、感想には「根拠」や「判断の基準」がなければ、他の人を「納得させる」ことはできません。この「根拠」「判断の基準」が「学び」です。ですから「学び」は私たちの周りのありとあらゆるものに存在します。好奇心をもって学べばどんどん「深まる」のです。そして、多くの「根拠」「判断の基準」を持っていることで、他の人の「考え」に触れて理解することができるし、他の人の「根拠」や「判断の基準」について検討したり、理解したりすることができ、自分の「学びが広がり」「物事の見方が広がり」「人生が広がり」ます。「若いから言わない」ではなく「学んでいないから言えない」のです。「若くても、幼くても学んでいる」人は「自分の意見、考え」をきちんと話しましょう。自分が「深く学び」「好奇心をもった学び」から発せられる「言葉」はほとんどの場合、間違っていないです。

大人も子供も「学び」を深め「根拠」をもって、恐れずに「自分の考え」を話すことが必要です。